

以上の区分を行って、勝山町の現在のため池周囲の景観をまとめると、町の北西部を占める長峡川沿岸の諫山地区や下田川沿岸の低地は森林景観が七割以上を占めるⅠ型景観が主体であることが分かる。町の東部の黒田地区は森林景観が卓越するものと農地景観が卓越するものと混在し、森林と農地から構成されるⅡ型景観の占める割合も大きい。南部の久保地区は、南部の山麓部を中心に森林景観の卓越する地域もあるが、丘陵地や低位段丘などの地形が複雑に配置している。このため森林・農地・水域（ため池）・裸地（ゴルフ場）などがため池の周囲に複雑に入り組んでいて、勝山町の中では多様な土地利用景観が展開しつつある。

このようなため池周辺の土地利用景観の分布から、今後は南部の久保周辺から規模の大きい土地利用景観の変化が生じ景観の複雑化が更に進行する可能性があり、既にゴルフ場の開発もこの地域から始められた。なお、東部の黒田地区は国道二〇一号線の改良に伴って、国道沿いに都市化が進行すると予想されるが、この地域の農地の生産力は大きく、水田を中心とした農地と観音山塊を中心とした森林を中心とするため池周囲の景観は当面維持されるものと判断される。また、北西部の諫山地区は、森林単一景観を中心としたため池景観が主たるものである。この地域は当面現状の景観が継続すると考えられるが、農業用水利としてのため池の重要性が低下した場合にはため池そ

のものが失われる可能性もある。このように農業と結びついた気候景観としてのため池は、将来にも継続される可能性が大きい。今後の利用継続には水域空間としての景観価値などの要素も考慮される必要がある。

第四節 勝山町の景観の変遷

一 地形図で見た勝山町

変化の小さい勝山町

勝山町は昭和三十年（一九五五）に三村合併により町制施行し五〇年を経ているが、その景観や土地利用の変化を少なくとどめることのできた地域である。三村合併直前の昭和三十年一月三十日国土地理院発行の五万分の一の地形図「行橋」図幅（昭和二十五年応急修正版）（図1-9）と、最近の平成九年（一九九七）六月一日発行の五万分の一の地形図「行橋」図幅（平成七年修正測量）（図1-10）とを比較して、地形図から読み取れる勝山町の変化についてまとめてみよう。

図1-9と図1-10を比較して見ると、見掛けの印象がかなり違っていることが分かる。図1-9は測量を地上で実測して作図したものであり、測量地点との間は手書きで描いた地図である。図1-10は地上の測量結果にもとづいて航空写真を立体

視して図化する方法で作成した地図である。このため両者の等高線の描き方には大きな違いがあるものの、重要な三角点などの位置は変化していない。なお、地形図の図法について、前者は多面体図法、後者はユニバーサル横メルカトル図法を採用しているためわずかに形が歪む。また後者の平成十四年四月一日以降は世界測地系を採用しているため、緯度経度の数値が若干変化しているが、図幅の境界は従来からの緯度経度の値を採用しているため、地図上で相違は見られない。

昭和三十年版地形図と平成九年版地形図に記された行政・集

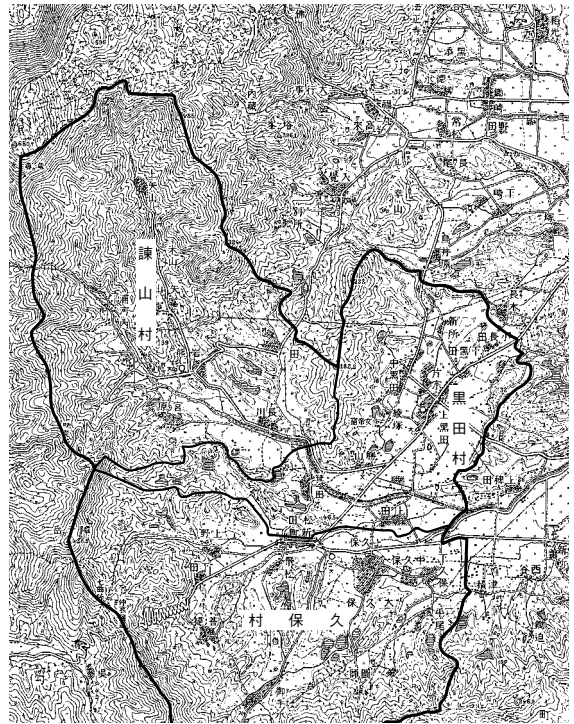


図1—9 昭和30年の地形図（国土地理院発行5万分の1地形図「行橋」）

落地名を比較すると、前者に記載されていた合併前の村名（諫山村・黒田村・久保村）がなくなり勝山町に変化したほか、前者に記載されていた綾塚・片宗・新所などの地名が後者では記載されていない。これは主に黒田周辺の地名が整理された結果と考えられ、集落そのものがなくなる事例ではない。勝山町の人口は、昭和三十年以降平成十年まで漸増傾向にあり、その後緩やかな減少へと移行している。農業を産業の中心とする地域でありながらこの五〇年間に過疎化が生じなかったことは、勝

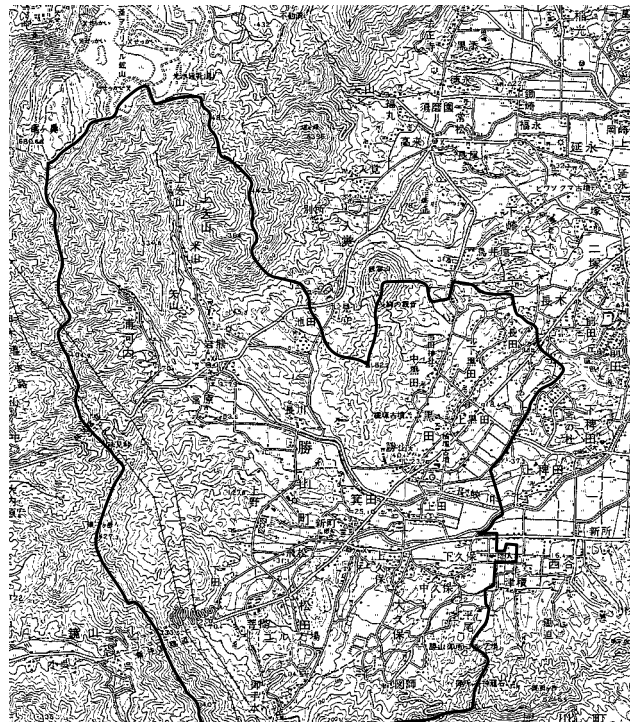


図1—10 平成7年の地形図（国土地理院発行5万分の1地形図「行橋」）

山町の行政が誇るべき成果といってよい。

土地利用など 地形図に現れた土地利用を見ると、昭和三十
年に現れた変化 年も平成九年も全般的に見ると、大久保の勝

山御所ゴルフ場と松田チェリーゴルフクラブ小倉南の建設のほ
かは大規模な土地利用変化や地形改変は見られない。

長川集落北側の台地に作られた畑地も土地利用としては変化
していないことが分かる。水田地域も位置はあまり変化してい
ない。ただし圃場整備の進行により、水路網や水田の配列等は
大きく変化している。

小規模な変化は地形図にも現れる。松田新町北側の丘陵地は
昭和三十年には森林に覆われていたが、現在は三島団地の集落
へと変化した。小長田集落の北にあった畑地の一部には小長田
団地が造られるといった変化もある。また上野付近にあった丘
陵地は国道の整備とともに、工業用地に造成されている。

最大の変化は、道路網の整備である。昭和三十年当時の砂利
道は舗装が進み、国道二〇一号線は、新仲哀隧道と黒田のバイ
パス建設によってその通過位置と土地利用の性格を変化させ
た。新しい国道二〇一号線沿いには飲食店などの商業施設が次
第に形成されつつあり、都市化の兆しが認められる。道路網の
変化では、県道荊田・採銅所線も味見隧道の新設と岩熊と池田
の両集落のバイパス設置があり、これから変化する可能性が生
じている。昭和三十年代までの筑豊地域への道は、自動車の通

行できた味見峠と仲哀隧道のほかにも峠道がいくつか残されて
いた。しかし、浦河内から上採銅所へと延びる道や上野から七
曲峠を経て鏡山へ向かう道、上矢山から平尾台へと向かう道な
どの徒歩通行の道は現在失われている。

三村合併によって、岩熊にあった諫山村役場、上久保と新町
の間にあった久保村役場、上黒田にあった黒田村役場は、上田
の勝山町役場へと移転した。勝山町役場は、隣接する図書館・
公民館総合施設のサン・グレートかつやまと共に町内の中心業
務地区へと変貌した。近い将来の広域合併後にも、現在形成さ
れつつある中心業務機能を地域の財産として今後にも有効活用し
ていくことが望まれる。昭和三十年の合併前の旧三村に一枚ず
つ設置されていた小学校は現在まで引き継がれており、これら
は将来も地域の文化的なセンターとして引き継がれることが望
ましい。

二 米軍撮影空中写真で見た勝山

勝山町付近を撮影した最も古い空中写真は、昭和二十二年
(一九四七)四月十七日に米軍の撮影した縮尺約四万分の一航
空写真である。写真1―5上は諫山村と黒田村を中心にしたこ
のときの写真を示したものである。図では、森林や水が黒く写
り、水田や畑地は中間的に写り、裸地は明るく写る。この写真
を二枚並べているように見える写真1―6では、右目で右の写